

# 平成25年度八重山群島病害虫発生予報第6号(9月予報)

## I 9月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	50	30	40
平年並	30	30	30
低い(少ない)	20	40	30

(平成25年8月23日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(℃)	最高気温(℃)	最低気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	27.9	30.7	25.8	257.7	193.6

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

## II 9月の発生予報および防除上の注意事項

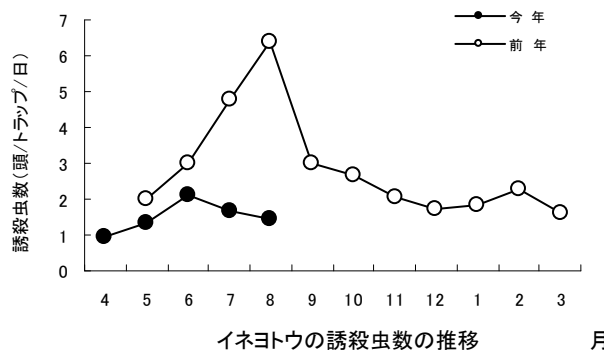
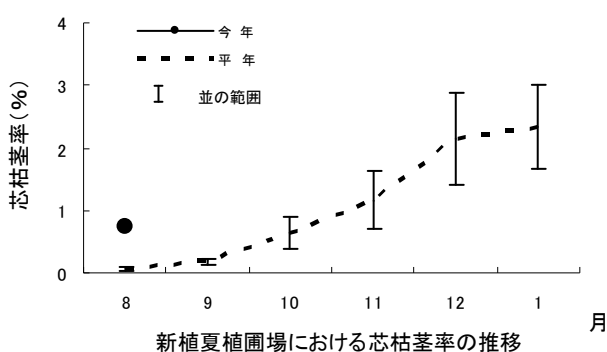
### 1 水稻(二期作)

- スクリンゴガイの防除対策
  - a 8月下旬の調査の結果、1㎡当たりの貝数は1.0頭(前年0頭、平年0.3頭)と平年より多かったが、発生は一部水田に限られた。また、入水後の本田や用水路に卵塊がみられた。
  - b 例年、本種の被害は二期作に多く見られる。
  - c 貝および卵塊は見つけ次第捕殺する。なお捕獲するときにはゴム手袋を着用する。
  - d 取水口に金網(5mm以下)を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
  - e 本田での被害が集中する移植後2～3週間頃から浅水管理(1cm以下)に努め本種の活動を抑えるとともに、薬剤を施用する。
  - f 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所をつくらない。
  - g 一期作において発生が著しかった地域では、生産部会等で一斉防除する。
  - h 生態等については、本号今月のトピックス(表紙)参照。

## 2 さとうきび

### ○ イネヨトウの防除対策

- 8月下旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は0.8%(前年0%、平年0.1%未満)と平年より高かった。
- 8月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.4頭(前年6.1頭)であった。



### <防除上注意すべき事項>

- ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- 植付け時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- 本号コラム「新植夏植におけるイネヨトウの防除対策について」(p14)参照。

### ○ バッタ・イナゴ類の防除対策

- 8月下旬の調査の結果、一部圃場および隣接草地で発生がみられた。
- 発生源となる圃場および周辺の除草を徹底する。
- 被害を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- 平成25年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成25年6月18日付)。

### ○ 野その防除対策

- 8月下旬の調査の結果、被害茎率は0.2%(前年0%、平年0.1%未満)であった。
- 雑草が繁茂した環境を好むことから、除草を行う。
- 剥葉残渣などの野積みに巣をつくることから、野積みを行わない。
- 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

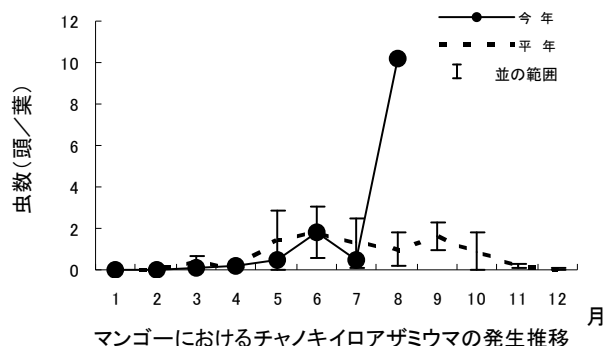
### 3 マンゴー

#### (1) チャノキイロアザミウマ

発生程度 : 多

予報の根拠

8月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は10.2頭(前年0.1頭、平年1.0頭)と平年より多かった。



#### <防除上注意すべき事項>

- 収穫期に発生が多かった施設では、不要な新梢等を除去したのち、薬剤による防除に努める。
- 剪定後の新梢の発生が早い園地では、本種の発生時期が早くなることから、新梢をよく観察し、初期防除に努める。
- 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

### 4 パインアップル

#### ○ 心腐病(疫病、萎ちょう病、根腐萎ちょう病)の防除対策

- 8月下旬の調査の結果、被害茎率は3.3%(前年0%)であった。
- 種苗の切口および剥葉部は十分に乾燥させ、種苗消毒の徹底を図る。
- 加湿条件下で発生が助長されるので、土壌の排水を良くし、深植を行わない。
- 敷草を行い雨滴のはね上がりを防ぐ。